

放 射 線 の 影 響

～第2回リスクコミュニケーション講演会～

3月13日(日)、東通村防災センターにおいて、「第2回リスクコミュニケーション講演会(主催:東通村、協力:東北エネルギー懇談会)」が開催され、村民や村内事業者など約90人が参加しました。

これは、原子力災害が発生した場合、国・県・村を含めた防災関係機関が連携し対応することとなりますが、村民の皆さんにも、村などからの指示に従い、冷静に行動していただく必要があることから、第2回目として、放射線に精通されている中川恵一氏(東京大学医学部付属病院放射線科准教授)をお招きし、「放射線の影響」と題してご講演いただいたものです。

中川氏から、福島第一原子力発電所事故における放射線被ばくの状況、外部被ばくと内部被ばく、ベクレル(Bq)とシーベルト(Sv)、世界や日本の自然放射線と医療による被ばく、生活習慣と放射線被ばくの発がんリスクなどについて事例を交えてご説明やご紹介をいただきました。

村は、国策である原子力政策に協力するとともに、安全性の確保を大前提として、原子力との共生による村づくりを進めています。しかし、福島第一原子力発電所の事故が発生してから、我が国のエネルギー政策は、数多くの課題が山積みし、今後のエネルギー政策のあり方が大きな議論となっています。また、原子力災害が発生した場合における対応や体制なども大きく変更され、さらに検討が進められています。

村では、これらの状況を踏まえ、このような講演会をはじめ、様々な取り組みをしていくこととしておりますのでご協力をお願いします。



中川 恵一 氏



講 演 風 景

放射線被ばくのポイント

- ・被ばくを「怖れすぎても、怖れなさすぎても」、健康被害が出る。
- ・怖がりすぎによる健康被害を避けることが大事。
- ・被ばくする「量と時間」が大事。

ガンで命を落とさないために

- ・ガンにならないための生活習慣
- ・早期発見(ガン検診)で完治させる

ホームページ「東通村と原子力」メール配信サービスのお知らせ

村では、広く東通原子力発電所の状況や原子力全般についての情報を知っていただきたくホームページ「東通村と原子力」を開設しています。

また、希望者には原子力情報のメール配信サービスをしており、下記アドレスまたはQRコードにより登録することができます。

※機種によってはご利用できないものもあります。また、通信料等は利用者の負担となりますので、あらかじめご了承ください。

○ホームページアドレス <http://www.atom-higashidoori.jp/>

○メール配信サービス登録 <http://www.atom-higashidoori.jp/occ/main.php>



QRコード